

事業計画書

事業名	「写真でみるおらが村の学校」展	
実施箇所	旧大沢小学校(本館)	
実施期間	事業開始予定年月日	平成28年5月16日
	事業終了予定年月日	平成28年8月31日
事業概要	<p><事業の目的> 日本の近代学校教育は明治5年の「学制」が公布されたことにより始まった。当初の学校施設の多くは、江戸時代からの寺子屋や私塾と同様、寺院や民家を仮校舎としてスタートした。その後徐々に教育制度の整備や就学児童の増加、教員の確保等が進むにつれ次第に近代化にふさわしい初等教育施設としての学校が造られるようになった。当時の学校建設は各村々にとって大事業であった。とりわけ建設資金の大部分が村人の寄付によって賄われた為住民の負担は大きかった。それにもかかわらず、「新しい時代は新しい学校を」の考えの下、どの村も競うように立派な校舎を建設した。旧中込学校ほどではないが、塔屋や玄関の上にバルコニーを設けた学校もあった。学校建築は明治後期以降次第に類型化の傾向になるが、およそ一世紀に渡って続いた木造校舎も今ではほとんど見られなくなった。明治・大正・昭和と日本の初等教育を支えてきた木造校舎がどんな学校だったのか、佐久市内にあった今は無き「おらが村の小学校」を写真で振り返ってみよう。</p>	
	<p><事業の内容> 佐久市内の旧々町村にあった木造校舎の写真をパネルにして紹介及び校舎の沿革、規模等を略記する。同内容のリーフレットの作製。写真パネルは必要に応じて展示する。</p>	
	<p><事業の効果・アピールポイント> ・かつては、どこの町村にもあった木造の小学校は、地域文化の中心的存在であった。明治の先人が貧しい暮らしの中で、新しい教育に希望を託した熱意の表れが学校建設であり、当時の村人思いを偲ぶ事が出来る。 ・忘れかけていた「おらが村の小学校」を写真で振り返ることにより、一世紀に渡る郷土の歴史を思い起こし、地域の絆や郷土愛、世代間の交流等が図られる。 ・旧々町村ごとにあった木造校舎の写真が一同に展示される事により、各学校の特徴や違いが分かり、当時の村人が学校に寄せた思いがどんなところにあったのか理解できる。 ・同時代に出来た旧大沢小学校での写真展は、明治の木造校舎としての共通点も多く、今は無き他の小学校の理解に役立つ。</p>	
	<p><事業における市の役割分担> ・展覧会の宣伝、PRにご協力頂きたい。 ・旧大沢小学校施設の保存だけでなく活用も図っていただきたい。</p>	